

小矢部川の特徴

小矢部川は、南砺市南部の大門山（1572m）を水源として、県西部を流れる全長68kmの川です。その長さの半分以上は平野部を流れるため、他の河川と比較すると、流れがゆるいという特徴を持っています。かつては、庄川の支流だった時期があり、庄川から運ばれてきた砂礫により、流路は石川県境の山麓へ押しやられています。下流では大きく蛇行しており二上山へ登ると、その蛇行の様子がよくわかります。県内の河川は河川改修で人工的に作られた直線的な流路がほとんどであり、蛇行という自然の姿が見られる貴重な川であるといえるでしょう。川原が広がるのは南砺市、小矢部市と高岡市の旧福岡町までで、そこを過ぎると下流の特徴を示します。なお、河口は伏木港として整備されているので自然の姿を見ることはできません。



上流（中河内）



中流（福光大橋）



下流（国東橋）



河口

